

原罪

원죄
ORIGINAL SIN

神を呪う父と神を追いかけける娘、
三人の犯した罪と真実。
神に試される修道女。

神はそこにいるのか、
あなたの心が試される 102 分間。

ゆうばり国際
ファンタスティック映画祭
2019
審査員特別賞

赤い原罪 原題「ORIGINAL SIN」監督：ムン・シング（文信久）2017年 韓国 102分

出演：ベク・スンチョル / キム・サンオク / イ・ヒョンジュ

プロデューサー：クォン・ミョンファン（権明煥） | 撮影監督：チョン・ジェ・スン | 照明：ミン・ドクギ | 美術：イ・ヨンガブ / サウンド：スタジオ 87 | 編集：カン・ヒチャン

音楽：バク・ソフン | デジタルインターメディアイト：カン・ヒチャン

宣伝・配給：GACHINKO Film

赤い原罪

生きること、それは罪ですか？

漁村に暮らす貧しい父娘には秘密があった。

とある漁村の教会を訪れる白髪の女性。
その教会に修道女として務めていた四十年前の出来事が語られはじめる。四十年前、その村には極貧の身体の不自由な父親と癩癩持ちの娘が住んでいた。他人に頼らず生きようとする父娘と手を差し伸べようとする修道女。村と父娘の秘密と罪があらわになっていく。



韓国で宗教論争を巻き起こした問題作！

『赤い原罪』は、神を呪い抗い続ける貧しい父娘の姿を修道女の目を通して描き「神に救いはあるのか」「罪とは何か」を観る人の心に強く訴える作品である。神学を10年学び、牧師の資格を持つムン・シングが監督し宗教問題に鋭く切り込んだ本作は、公開とともに韓国で宗教論争を巻き起こした。神を信じるクリスチャンにとっては本作のテーマを決して看過することができず、テーマに真摯に向き合うことは自身の宗教心を確かめ見直すことにつながる。さらに本作は単なる宗教映画にとどまらず、「生きる」という人間の根源的な想いを伝える力強い人間ドラマでもある。

ゆうばり国際ファンタスティック映画祭 2019 にて審査員特別賞を授賞、長らく日本公開を待たれていた作品が満を持して劇場公開される。

赤い原罪 (原題「ORIGINAL SIN」) 監督：ムン・シング (文信久) | 2017年 | 韓国 | 102分 | 宣伝・配給：GACHINKO Film



そこに在るのは罪ですか？
生きることを問う、問題作。
劇場公開。

ユーロスペース
EUROSPACE

東京都渋谷区円山町 1-5 KINOHAUS 3F
10月～劇場公開

特別鑑賞券はこちら

